

カ Z 「SEED DESTINY」

カオスガンダム

機体名	カオス	画像
型式番号	ZGMF-X24S	
英語名		
所属	ザフト軍地球連合軍	
パイロット	スティング・オークレー	
装甲材質		
装備	頭部機関砲：MMI-GAU1717 12.5 ミリ CIWS 胸部機関砲：MMI-GAU25A 20 ミリ CIWS ビームサーベル：MA-M941 ヴァジュラ ビームサーベル背部ビーム砲：MGX-2235B カリドゥス改 複相ビーム砲両肩兵装ポッド：EQFU-5X 機動兵装ポッド兵装ポッドビーム砲：MA-81R ビーム突撃砲兵装ポッドミサイル：AGM141 ファイヤーフライ 誘導ミサイル脚部ビームクロウ：MA-XM434 ビームクロウシールド機関砲：MMI-GAU2 ピクウス 73 ミリ機関砲ビームライフル：MA-BAR721 高エネルギービームライフルシールド：MMI-RG330 巡航機動防盾	
作品名	機動戦士ガンダム SEED DESTINY	
参考書籍	MIA データシート 0030	

内容

CE72 年 3 月 10 日に結ばれた停戦協定・ユニウス条約に盛り込まれたさまざまな制約が、ザフト・地球連合の両軍に新たな MS 開発を行わせる結果となった。

ユニウス条約には核エンジンの使用を禁止する「N ジャマーキャンセラーの使用禁止」の条項をはじめ、ミラー・ジュコロイドの使用禁止、MS 保有機数の両軍での制限などが含まれ、世界は軍縮の方向に動き始める。

そしてこのユニウス条約が、両軍の兵器開発に大きな影響を及ぼす。

「制約の中で最大限の効果を発揮する機体」の開発、たとえば制限機数が 100 機であれば 1 機で 3 機に相当する性能の機体を開発するといった開発スタンスのシフトが行われていくのである。

この様な状況下でザフトが提示した開発プランが、ザクを始めとする主力機開発計画「ニューミレニアムシリーズ」とフリーダム・ジャスティスに次ぐ新たなガンダム開発計画「セカンドステージシリーズ」である。

インパルスに代表されるセカンドステージシリーズでは「デュートリオンビーム送電システム」など 1 機で戦局を左右するような革新的な技術や装備が搭載されている。

カオスガンダムはセカンドステージシリーズの MS のうち、宇宙空間での戦闘を主眼に置いた強襲用の機体である。

MA 形態に変形し大型のビームクロウで敵機を拿捕することが可能で、背部の機動兵装ポッド、

MA 形態時の頭部に内蔵されたカリドゥス改複相ビーム砲など、高出力な火器を多数装備している。

型式番号にはセイバーガンダムと同じく航空系の機体を表す「2」が含まれている。

備考

スペック

項目	内容
全高	
頭頂高	
全長	
本体重量	
全備重量	
ジェネレーター出力	
スラスタ-推力	
センサ有効半径	